

耕作放棄地をお花畑に

近年、ミツバチの不調が伝えられ、農薬やダニや病気などが原因であると推測されています。しかし、ミツバチが利用できる植物が減っているということが、全世界的な問題となっています。土地の開発が進んだことで、多様な植物が連続的に開花する土地が減り、畔畦を含む農地周辺がミツバチにとっての資源として大きな比率を占めています。こうした資源は、植物種が限定的で、花粉や花蜜を利用する場合に栄養的に偏りが生じやすくなります。私たちがさまざまな花を植えて、お花畑を作ることは、ミツバチにとっての資源回復につながります。

一方で、耕作放棄地は増え続け日本の農業の課題の1つであり、その耕作放棄地をお花畑化することによって、可食部の少ない花の場合は鳥獣害を受けにくく、イノシシやシカの農地周辺での活動を低減させることもでき、またいかにも荒れた感じのある耕作放棄地と比較した場合、ゴミの投棄などが減り、景観の美化としても期待できます。また、お花畑を維持するためには耕起、播種と数回の除草が主たる作業で、他の農作物を栽培するよりも農地を維持しやすく、耕作放棄地の原野化を防ぐことにもなります。さらにマメ科の緑肥植物などによって、疲弊した土地を回復させることも可能です。草本類を主体とすることで、農地への再転換も容易です。

このような背景を受けて、将来的には、養蜂および農業の活性化を目指した事業の展開を、一種の社会実験として実施したいと思います。具体的には、甲府市相川地区で、耕作放棄地を利用してお花畑を創出し、その効果を養蜂家のミツバチの成育状況や生産状況から評価し、また農地の再生ポテンシャルの維持を目指して行きたいと考えています。そのため、養蜂を行う農家への農地の貸与に限定せず、現在耕作を行っていない農地の保全として、農家の方自身でのお花畑化も含め、多様な発展に期待しています。